

読む・百人一首 067

周防内侍

春の夜の

夢ばかりなる

手枕に

かひなく立たむ

名こそ惜しけれ

はるのよの

ゆめばかりなる

たまくらに

かひなくたたむ

なこそをしけれ

読む・百人一首 068

三条院

心にも

あらでうき世に

ながらへば

恋しかるべき

夜半の月かな

こころにも

あらでうきよに

ながらへば

こひしかるべき

よはのつきかな